

令和 4 年度

公益財団法人いわき市教育文化事業団予算書

(抜粋)

自 令和 4 年 4 月 1 日

至 令和 5 年 3 月 31 日

公益財団法人いわき市教育文化事業団

目 次

	ページ
事業計画書	1
収支予算書	11

事業計画書

令和4年度事業計画

令和4年度は、引き続き、新型コロナウイルス（以下「新型コロナ」という。）感染症の感染拡大防止に十分意を用いながら、市施策との連携を図り、本市の活性化に寄与してまいります。

文化財部門は、特にいわき駅前での再開発計画等が進展することにより、平城跡の発掘調査が4箇所予定されるとともに本丸跡や内堀跡等の報告書作成などが進められることから、適切に対応してまいります。

施設部門は、現指定管理期間の後半期を迎えます。事業実績に対する評価・検証を適切に行い、事業の推進を図りながら、次期指定に向けた事業計画等の作成に取り組みます。さらに、新型コロナの感染状況を見極めながら、市民が安心して利用できる施設運営と利用者の拡大につながる事業展開に努めます。

基本理念

当財団は、埋蔵文化財の調査及び研究を行うとともに、教育水準の向上及び文化の発展に寄与するために、人の営みや地域に根ざした歴史・文化を正しく継承、発信し、新たなまちづくりに活かしていくことを目指します。

今後とも、公益法人としての社会的責任を強く自覚し、行政や地域団体等との「連携・協働」の強化を図りながら、社会ニーズを捉えた管理運営を誠実に実行します。

基本方針

- ① 教育文化の振興とまちづくりへの貢献
 - ・地域の歴史や文化を知る機会をつくり、市民にとって魅力ある運営を行います。
 - ・蓄積してきた調査・研究成果を提供し、学校教育や社会教育などに貢献します。
- ② 市民に愛され親しまれる施設の確立
 - ・多様化・高度化する市民ニーズを捉え、市民が内外へ誇れる施設を目指します。
 - ・地域の歴史や伝統を体験・学習できる施設として、機能を十分に発揮します。
- ③ 時代の変化に対応できる運営体質の構築
 - ・施設の設置趣旨に沿った事業を実行するため、適切に専門職員を配置します。
 - ・幅広く柔軟な管理運営のために、研修を充実させ、人材の育成強化を図ります。

1 文化財部門(公1 埋蔵文化財の発掘調査事業)

本年度の事業は、市内13件、市外2件、計15件の事業受託を予定しています。

試掘・確認調査は、開発に伴う事前調査で、埋蔵文化財包蔵地内の個人住宅建築や民間開発、公共事業等を要因とします。

発掘調査は、いわき駅周辺における再開発事業等に伴い3箇所の調査及び石垣整備の事前調査が予定されています。また、岡ノ内遺跡については令和3年度未調査分について実施します。

整理・報告書作成は、平城跡の過年度発掘調査分の本丸跡や内堀跡2件の整理を行い、1件は報告書を刊行します。さらに、確認調査の梅ノ作瓦窯跡群をはじめ、未整理遺跡の館跡遺跡、継続の餓鬼堂横穴群などは整理、報告書作成を、檜葉町の馬場前遺跡は整理を、さらに本宮市大学館跡は報告書の刊行を予定しています。

その他、史跡磐城平城跡塗師櫓石垣に関する復元整備に伴う確認調査を実施する予定です。

事業の実施にあたっては、発掘調査等における安全な作業環境の確保と事故の防止、事業の円滑な実施に努めます。

No.	事業名	委託者	遺跡名	事業内容
1	市内遺跡発掘調査 (試掘・確認調査)	いわき市教育委員会 (文化振興課)	市内一円	試掘・確認調査 整理、報告書作成
2	いわき駅並木通り地区市街地再 開発①	いわき市(都市整備課)	平城跡 (平字田町)	発掘調査
3	いわき駅並木通り地区市街地再 開発②	いわき市(都市整備課)	平城跡 (平字田町)	発掘調査
4	都市計画道路搔槌小路幕ノ内線 道路(柳町工区)改良工事	いわき市(土木課)	平城跡 (平字柳町)	発掘調査
5	市道南白土関根2号線改良工事	いわき市(土木課)	岡ノ内遺跡 (平南白土字岡ノ内)	発掘調査
6	いわき駅北口再開発	東日本旅客鉄道株式会社	平城跡 (平字白銀町)	発掘調査
7	市内遺跡発掘調査 (報告書作成)	いわき市教育委員会 (文化振興課)	応時遺跡 (勿来町大高応時)	整理 報告書作成
8	梅ノ作瓦窯跡群範囲確認調査	いわき市教育委員会 (文化振興課)	梅ノ作瓦窯跡群 (小川町下小川)	整理 報告書作成
9	埋蔵文化財発掘出土品等整理 事業	いわき市教育委員会 (文化振興課)	館跡遺跡 (植田町館跡) 大畑K地点 (泉町下小川字大畑)	整理 報告書作成
10	餓鬼堂地区埋蔵文化財発掘調査 事業	いわき市(林務課)	餓鬼堂横穴群 (平薄磯字北ノ作)	整理 報告書作成
11	中心市街地活性化広場公園整備 事業	いわき市(公園緑地課)	平城跡 (平字旧城跡)	整理
12	いわき駅南口ホテル新築工事	東日本旅客鉄道株式会社	平城跡 (平字田町)	整理 報告書作成・刊行
13	町道馬場前線改良工事	檜葉町	馬場前遺跡 (檜葉町大字上小埜字 馬場前)	整理
14	県道本宮三春線整備	県北建設事務所(本宮市)	大学館跡 (本宮市高木字大学)	報告書刊行
15	史跡磐城平城跡塗師櫓石垣整備	いわき市(文化振興課)	史跡磐城平城跡塗師櫓 (平字旧城跡)	石垣の確認調査

2 施設部門（公2 教育文化施設の管理運営事業）

各施設においては、指定管理者の立場を踏まえ、施設の設置目的や機能に基づいた適正な管理運営を行い、公共施設の持つ意義を考え、利用者への公平かつ平等なサービスの提供に努めます。

また、利用者の意見を適宜把握しながら、質の高い事業を展開することによって、市民へのサービス向上を図ります。

さらに、利用者の安全確保を最優先に、施設設備の維持管理に当たっては細心の注意を払い、市や県と連携しながら快適で利便性の高い施設環境を確保します。

(1) いわき市立草野心平記念文学館及びいわき市草野心平生家

文学館では、春、夏、秋の計3回の企画展を開催します。

春の企画展「草野心平の命名 名前・名前・名前」では、心平が命名した事物を取り上げ、関連する自筆原稿、書籍等を展覧し、命名にまつわるエピソードを心平の言葉で紹介します。命名の達人といわれた心平の魅力にあらためて気づくきっかけとします。

夏の企画展「ふつうがえらい！ エッセイスト 佐野洋子展」では、自筆原稿や束見本、挿絵原画、佐野の代表作である絵本『100万回生きたねこ』のデジタルリマスター版原画等を展覧し、すぐれたエッセイストでもあった佐野のことばを軸に、人物像やエピソード、絵の仕事などを通して、佐野の魅力を紹介します。

秋の企画展「萩原朔太郎大全2022 一詩の岬一」では、没後80周年を記念して萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち 前橋文学館が呼びかけた共同企画展「萩原朔太郎大全2022」に参加し、全国の文学館等52館と連携しながら、大正初期のいわき地域が、口語自由詩が確立されていく現場であり、詩壇の最先端であったことを紹介します。

また、所蔵品展として、いわきゆかりの文学者を紹介するスポット展示を年4回、開催します。

さらに、文学関連をはじめとした多彩な事業を展開します。文芸講演会では活躍中の方を講師に招いて講演会を開催し、文学散歩では、いわきゆかりの文学についての理解を深めるきっかけを提供します。また、アートパフォーマンス事業では、7、8月の土曜日の夜間開館時の演奏会など幅広い芸術活動にふれる機会を提供します。

生家では、「心平誕生月の記念朗読会」、「カエルのクラフトワークショップ」、「子どもじゃんがら」、没後35回忌「心平忌」、「草野天平の集い」などを開催します。

(2) いわき市暮らしの伝承郷

企画展示事業は、2回実施します。4～11月の「磐城平藩内藤家入封400年記念 小川江筋と昔の農業」は、令和4（2022）年が江戸時代初期の1622年に内藤家が藩主として磐城平藩に入封して400年の節目の年に当たることから、これを記念し、内藤家の時代に整備された大規模な農業用水「小川江筋」を取り上げるとともに、江戸時代の農業について、鈴木寿山の「百姓四季生活風景」、さらには昔の農具などを展示紹介します。翌令和5年3月～6月の「磐城平城の絵図と城下の年中行事」では、江戸時代の磐城平城が描かれた城絵図や城下絵図を展示するとともに、磐城平城下で行われていた年中行事や人々の暮らしなどを紹介します。

常設展示事業は、既存の展示を基本に、資料の差し替えや追加、情報量の増加など、充実した展示とし、休憩コーナーにて収蔵資料や年中行事の展示の他に、時節に合ったトピック等を紹介するロビー展を実施し、来園者サービスの向上に努めます。

古民家の維持管理事業は、古民家を中心に畑や里山も含めた景観や昔の暮らしの復元・展示を通して、かつての生活文化の保存・伝承を図るとともに、来園者に学びや癒やしの空間を提

供します。

調査研究事業は、市内で行われている祭礼や年中行事、民具調査などを実施します。

講演会等事業は、文化庁より記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財として選択された「浜通りのお浜下り」についての講座と、第2回企画展に合わせ、いわき市内で実際に行われていた「年中行事」についての講座を開催します。

資料整理等事業は、収蔵している資料の適切な管理を実施し、資料整理については、民具等の寄贈や企画展準備にあわせて、効果的な実施を心懸けます。

体験学習事業は、「けん玉道場」「竹の鍋敷き作り」「正月飾り作り」「伝承郷で見つける自由研究」などを実施し、昔遊びや伝統技術を体験し伝承する機会の提供や、園内の動植物の観察、篠笛や箏などの音色に触れる演奏会、民具・伝統などの調べ学習の支援などを行います。

年中行事実施事業は、近年見られなくなった「端午の節句飾り・菖蒲と蓬挿し」「蚊帳吊り」「エビスコ」「こと八日」「餅花飾り」などを実施し、先人が培ってきた祈りと生活の知恵を来園者に紹介します。なお、行事本来の季節感を感じてもらえるよう、一部の行事は陰暦に基づいて実施します。

ボランティア育成事業は、生涯学習活動の一環として積極的に推進します。団体来園時のガイドボランティアには、資質向上を図るため毎月1回の意見交換・勉強会等を実施します。園内民家ゾーンで野菜を栽培する花と野菜作りボランティアには、園内展示の趣旨に沿った栽培をするよう、適宜、指導と助言を行います。囲炉裏の火焚き、年中行事補助等を行う民家維持管理ボランティアは、活動の際に注意事項を確認し、事故・怪我のないよう努めます。

学社連携事業は、市内外の学校見学の受入れのほか、民具の貸出や、実際の民具を使用した体験を実施します。

伝統芸能継承事業は、「めざせ！『子ども落語家』講座」と「キッズじゃんがら体験教室」を開催し、子どもたちが日本の伝統的な芸能文化を体験できる講座を開催します。

(3) いわき市勿来関文学歴史館

指定管理期間の5年次となります。

企画展は3回実施します。4月から7月にいわき市出身の俳人大須賀乙字を紹介する「大須賀乙字の仲間たち～近代俳句の青春～」、7月から9月にいわき市指定文化財「磐城七浜捕鯨絵巻」に描かれる浜の暮らしや捕鯨について解説する「徹底解説！磐城七浜捕鯨絵巻」、11月から2月に戦国時代岩城氏の家臣猪狩家に伝来した文書からこの時代の歴史を紹介する「動乱の中の猪狩家～戦国時代の岩城氏家臣～」を開催します。

スポット展示は2回実施します。9月から11月に現在のいわき市平赤井生まれの歌人白木英尾の生涯をたどる「白木英尾」、2月から4月に地域の歴史を語る資料である絵はがきに注目する「いわきの絵はがき～絵はがきが語る歴史～」を開催します。

講演会は、それぞれの企画展に合わせて展示内容をより深く理解できるテーマを選定し開催します。また、毎月学芸員によるギャラリートークを行います。

クラフト教室は、夏休み・冬休みに合わせて年2回、親子で楽しめるワークショップを開催します。また、日本の伝統文化を普及する事業として、勿来の関寄席を初めて開催します。

さらに、いわき市南部の歴史文化を発信する拠点施設として、報道機関への細かな情報提供や、ホームページ・SNSの随時更新など、情報発信に努めます。

あわせて、隣接する体験学習施設「吹風殿」の開錠施錠等業務を実施します。

(4) いわき市アンモナイトセンター

令和4年度は前年度に引き続き常設展示並びに体験発掘を主たる事業とし、その他の各種事業についてもあわせて展開します。当施設の基幹事業である体験発掘事業については、個人や家族を対象とした一般体験発掘を毎週土・日曜日に実施するほか、5月の連休及び8月のお盆休み、親子自然探訪教室を実施しない三連休においても特別実施日として開催します。また、学校等の団体を対象とした特別体験発掘は、原則として一般体験発掘を実施しない開館日に実施します。

企画展事業は、小・中学校の夏休み期間に「いわきの化石哺乳類」、冬休み期間に「開館30年!! アンモナイトセンター今昔」を開催します。新生代の地層から産出する哺乳類化石や、古生物学及び地質学の面白さを紹介するとともに、当館の30年間の歩みを紹介し、より一層施設の魅力を伝えることを目指します。また、企画展を通じて利用者の自由研究等に対するニーズにも資する展示を実施します。

親子自然探訪教室事業は、祝日を中心に年5回実施します。親子を対象とし、古生物学以外にも自然科学分野全般という広範なテーマでの体験学習カリキュラムの提供を通し、理科への興味と知識を育みます。

公開シンポジウム（化石講演会）は、例年と同様に久之浜中学校を会場として9月に実施します。双葉層群や中生代に関連したテーマ（令和4年度は恐竜）に関する専門講師を招聘し、常磐地域に関する地球科学的話題（化石を含む）について講演いただくことで地域の小・中学生や一般市民に地質学研究の魅力を伝えます。

これらに加え、地質学・古生物学に特化した博物館であるという特色を生かし、要請に応じて学校や各種イベントに出張し、講演やミニ体験発掘などの学習プログラムを提供する出前講座を実施します。また、地域の活動・イベントを通して地域社会とのさらなる連携強化に努めます。

自然史系他館や大学と連携して研究活動を行うとともに、標本登録についても積極的に推進することで当館の魅力と学術的付加価値の創出へとつなげます。

(5) いわき市考古資料館

企画展は3回開催します。第1回企画展は4月から7月に、令和3年度市内で行われた発掘調査や試掘・確認調査の成果を紹介する「令和3年度発掘調査速報展」、第2回、第3回企画展は、令和元年度から5か年計画のテーマである『探る』に焦点を当てた縄文時代の展示を行います。第2回企画展は7月から11月に、縄文人の精神文化を探る「いのりのかたち」、第3回企画展は12月から3月に、縄文人の生活の痕跡を貝塚の資料から探る「貝塚に学ぶ」です。

講座は3件行います。企画展に関連させた「いわきの考古学講座」は5回実施します。市内外から専門の講師を招き、縄文時代に関連する各分野の内容を予定しています。また、夏休みには小学生を対象にした「自由研究に挑戦!!」、新たなボランティアを育成する「ボランティア養成講座」を行います。

体験学習会は、5月の「ゴールデンウィーク体験学習会」、8月の「キッズミュージアム」、11月の「古代まつり」のほか、「勾玉づくり体験会」はゴールデンウィークと夏・冬休み期間中及び2月の計7回を予定し、年間10回開催します。

そのほか、資料に対する問い合わせや貸出、勾玉づくりなどの体験や考古学史に関連する出前講座の要請などにも積極的に応え、利用者の満足度を高めていきます。

(6) 福島県いわき海浜自然の家

恵まれた自然環境の中で行うさまざまな活動を通して、青少年の心身の健全な育成を図るとともに、県民に多様で魅力ある体験活動の場を提供することに努めます。また、利用者の安全を最優先とし、安全衛生の管理と施設環境づくりを徹底して行います。新型コロナウイルスに対しても、利用者が安全に安心して活動できるよう感染拡大防止対策を徹底します。

主催事業では、子どもから大人まで広く県民に施設を開放する「春・秋のオープンデー」、運動の機会を提供することで健康への意識向上を図る「スポーツフェスティバル」、創作活動を通して家族の絆を深めながら自然に親しむ「親子のつどい」「クラフトのつどい」などを開催します。また、例年小学生を対象として実施している1泊2日の「ふれあいオータムキャンプ」に加え、2泊3日の「ふれあいサマーキャンプ」を開催します。

研修事業では、学校教育団体及び社会教育団体の指導者を対象とした事前研修会を開催します。学校教育団体については、利用申込団体数の増加に対応するため4・7月に計4回開催し、インターネットを利用した動画配信なども活用しながら、当所での活動内容について理解を深めていただくよう努めます。社会教育団体については、利用が増加する前の5月に開催し、活動計画の作成を支援するとともに、安全に海浜活動を行うための実技体験を実施します。ボランティア活動希望者が体験活動を支援するために必要な知識や技能等を学ぶ「ボランティア養成講座」については、年4回開催するとともに、高校生及び大学生の若い世代がボランティア活動に参加しやすい環境を目指します。

また、不登校児童生徒を対象に自然体験活動や交流体験の機会を提供する「心のケアが必要（不登校等）な子どもたちを対象にした自然体験事業」や、子どもたちの運動不足の解消や体力向上を促すことを目的として、スポーツやアスレチック活動を取り入れたプログラムを提供する「未来キッズ生き生き事業」などを開催します。

諸課題については、利用者目線で解決にあたり、県民に親しまれる施設づくりに努めていきます。

(7) いわき市生涯学習プラザ

令和4年度は、指定管理受託期間5か年の第3年度にあたります。引き続き、いわき市における生涯学習の拠点施設としての役割を踏まえた事業を推進し、多様な市民ニーズに応えられるよう努めます。

プラザが企画し運営する主催講座及び、サークルやITリーダーが自主的に企画・運営する「サークル企画講座」を年間50講座前後、実施します。ITボランティアや子育て支援ボランティアによる「ボランティア活用事業」は、参加者・利用者から高い評価を得ており、今後も継続して実施します。市民ニーズが高く、応募者が多い「パソコン実用講座」「いわき再発見講座」は、引き続き内容の充実を図り開催します。また、生涯学習推進計画の重点項目である子育て支援のため、「親子ものづくり講座」等の親子で参加できる講座の充実を更に図ります。

「いわきヒューマンカレッジ（市民大学）」及び「生涯学習フェスティバル」については、全市的な事業として、内容の充実を図りながら、生涯学習支援ボランティアの会と連携して効率的な事業運営を実施します。

共催事業としては、一般社団法人茶道裏千家淡交会いわき支部との「お茶会」、いわき市華道連合会との「生け花展」など、各種団体や社会教育施設との連携事業も開催します。

3 管理部門（法人会計）

(1) 基本方針

事務局は、公益財団法人及び指定管理者としての立場を踏まえ、当財団が担う使命を全ての職員や施設が一体となって遂行していけるよう、運営の方向性を明確に示しながら、施設間と連絡調整を行い、財団全体の事業推進をサポートします。とりわけ、新型コロナの感染防止に、引き続き万全を期してまいります。

また、理事会・評議員会を適切に開催し、収支相償に留意しながら、円滑な財団運営を図ります。

さらに、財団運営を支える人材の確保・育成を着実に進めるために、健康管理をはじめとした福利厚生や研修の充実を図るとともに、必要に応じ、処遇の改善にも努めます。

(2) 事業計画

ア 組織運営

円滑な組織運営を行うため、法令等の改正に合わせた就業規則等諸規程の整備及び適切な運用を図るとともに、収支相償の原則を遵守しながら、財源の効率的な執行を推進し、最適な施設管理に努めます。

また、施設長会議や事務担当者会議を定期的を開催することにより、各種情報の共有及び課題の解決を図ります。

イ 人材育成

職員の資質向上を目指し、ふくしま自治研修センターでの基本研修をはじめ、専門的な研修や各種講習会等への参加、個人研究に対する自主研修制度の利用促進を積極的に図ります。

研究等の成果については、「研究紀要」を刊行することにより、市民等に還元します。また、令和4年度は第20号となることから、記念号として、歴史・民俗・文学や社会教育に関する専門職員の成果を多数掲載し、当財団の特色を出していきます。

ウ 情報発信

財団の財務諸表の公開はもとより、各施設の事業計画やイベント等の情報をホームページやSNSを通じ、適時適切に提供してまいります。

エ 啓発事業

職員の専門性を活かし、小・中学校や公民館、地域団体等の要請による出前講座を積極的に実施します。

また、「たからものずかん」シリーズを、継続して刊行します。

4 職員に関する事項

(令和4年1月31日現在)

(1) 事務局

括弧内数字：兼務職員数 単位：名

区 分	事務局長 同相当職	次 長 同相当職	係 長 同相当職	主任職	係 員	嘱託職員	補助職員	計
事務局	1	1	—	—	—	—	—	2
企画管理係	—	1	—	2	—	—	1	4
調査係	—	—	1	3	1	3	8	16
計	1	2	1	5	1	3	9	22

(2) 施 設

区 分	館 長 所 長	次 長 同相当職	係 長 同相当職	主任職	係 員	嘱託職員	補助職員	計
文学館	1	1	—	2	1	—	4	9
伝承郷	1	1	—	1	1	—	3	7
勿来関 文学歴史館	1	—	—	—	1	1	2	5
アンモナイト センター	1	—	—	1	—	1	3	6
考古資料館	(1)	—	1 (1)	(3)	(1)	—	2	3 (6)
いわき海浜 自然の家	1	1	3	2	—	1	9	17
生涯学習 プラザ	1	1	1	1	1	—	6	11
計	6 (1)	4	5 (1)	7 (3)	4 (1)	3	29	58 (6)

合 計	7 (1)	6	6 (1)	12 (3)	5 (1)	6	38	80 (6)
-----	----------	---	----------	-----------	----------	---	----	-----------

収 支 予 算 書

収 支 予 算 書

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

(単位千円)

科 目	当年度	前年度	増減	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益 (A)	1	1	0	
基本財産受取利息	1	1	0	
事業収益 (B)	739,807	634,056	105,751	
文化財調査受託料	262,614	159,411	103,203	事業受託15件
施設指定管理料	466,962	463,720	3,242	施設8件
いわき市立草野心平記念文学館	76,558	76,393	165	
いわき市草野心平生家	3,254	3,254	0	
いわき市暮らしの伝承郷	51,520	51,235	285	
いわき市勿来関文学歴史館	35,798	35,798	0	
いわき市アンモナイトセンター	26,554	26,408	146	
いわき市考古資料館	17,647	17,446	201	
福島県いわき海浜自然の家	158,571	156,283	2,288	
いわき市生涯学習プラザ	97,060	96,903	157	
施設事業受託料	8,372	7,896	476	事業受託4件
いわきヒューマンカレッジ	3,894	3,418	476	
未来キッズ生き生き事業	3,650	3,650	0	
吹風殿開閉業務	328	328	0	
心のケアが必要な子ども対象事業	500	500	0	
施設利用料	1,838	3,008	△1,170	施設1件
出版物頒布料	21	21	0	
雑収益 (E)	574	643	△69	
受取利息	5	5	0	
雑収益	569	638	△69	
経常収益計 (F)	740,382	634,700	105,682	(A～E)
(2) 経常費用				
事業費 (G)	701,519	592,535	108,984	
給料手当	121,677	112,649	9,028	
賞与引当金繰入額	12,049	11,977	72	
賃金	207,023	155,100	51,923	
共済費	50,086	44,754	5,332	
報償費	6,132	5,793	339	
旅費	5,207	6,835	△1,628	
消耗品費	11,595	11,167	428	
被服費	576	485	91	

燃料費	8,130	7,269	861
食糧費	506	438	68
印刷製本費	16,632	17,852	△1,220
光熱水費	31,780	27,496	4,284
修繕費	8,889	9,013	△124
通信運搬費	6,507	6,774	△267
広告料	571	696	△125
手数料	1,225	1,928	△703
保険料	1,539	1,205	334
委託料	94,952	92,950	2,002
使用料及び賃借料	61,597	29,520	32,077
工事請負費	1,540	958	582
原材料費	424	527	△103
負担金	325	341	△16
公租公課	40,037	33,351	6,686
消耗什器備品費	564	970	△406
減価償却費	11,187	10,458	729
支払利息	769	2,029	△1,260
管理費	51,473	50,994	479
報酬	399	399	0
給料手当	21,134	21,313	△179
賞与引当金繰入額	2,236	2,292	△56
賃金	4,295	4,116	179
共済費	6,113	6,267	△154
報償費	260	260	0
旅費	648	420	228
交際費	80	80	0
消耗品費	744	624	120
被服費	30	30	0
燃料費	72	72	0
食糧費	68	68	0
印刷製本費	3,602	1,542	2,060
光熱水費	125	125	0
修繕費	900	900	0
通信運搬費	304	304	0
広告料	50	50	0
手数料	466	446	20
保険料	152	164	△12
委託料	1,940	3,421	△1,481
使用料及び賃借料	2,097	1,899	198
負担金	1,159	942	217
補償費	38	236	△198

公租公課		4,011	4,474	△463	
消耗什器備品費		550	550	0	
減価償却費		0	0	0	
経常費用計	(I)	752,992	643,529	109,463	(G+H)
当期経常増減額	(J)	△12,610	△8,829	△3,781	(F-I)
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益		0	0	0	
経常外収益計	(K)	0	0	0	
(2) 経常外費用		0	0	0	
経常外費用計	(L)	0	0	0	
当期経常外増減額	(M)	0	0	0	(K-L)
当期一般正味財産増減額	(N)	△12,610	△8,829	△3,781	(J+M)
一般正味財産期首残高	(O)	134,077	142,906	△8,829	
一般正味財産期末残高	(P)	121,467	134,077	△12,610	(N+O)
II 指定正味財産増減の部					
当期指定正味財産増減額	(Q)	0	0	0	
指定正味財産期首残高	(R)	10,000	10,000	0	
指定正味財産期末残高	(S)	10,000	10,000	0	(Q+R)
III 正味財産期末残高		131,467	144,077	△12,610	(P+S)

資金調達及び設備投資の見込について

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

1 資金調達の見込について

借入の予定		<input type="checkbox"/>	あり	<input checked="" type="checkbox"/>	なし
事業番号	借入先	金額		用途	

2 設備投資の見込について

設備投資の予定		<input type="checkbox"/>	あり	<input checked="" type="checkbox"/>	なし
事業番号	設備投資の内容	支出又は収入の 予定額		資金調達方法 又は取得資金の用途	